

JAETP 特定非営利活動法人  
日本臨床運動療法学会

Vol.3

## News Letter

Japanese Association of Exercise therapy and Prevention

## 第42回日本臨床運動療法学会学術集会開催にあたって



会長  
中島 敏明  
獨協医科大学  
医学部 特任教授

2023年10月14日（土）～15日（日）、栃木県で、第42回日本臨床運動療法学会学術集会を開催させていただきますこととなりました。

今年のテーマは「サルコペニア・フレイルと運動療法 予防から治療まで」といたしました。日本は、超高齢社会を迎えており、さらに近未来、心不全のパンデミックを迎えようとしております。

そこで、サルコペニア・フレイル対策としての運動

療法を中心に、開催したいと思います。

運動療法としては、筋力トレーニング、電気刺激、加圧トレーニング、インターバルトレーニング、ストレッチなど、多彩な運動療法を取り上げ、また、最近保険収載された和温療法も、ランチョンセミナー等で取り上げようと思います。

教育講演も、骨格筋の基礎、栄養、ICT、遠隔医療など、興味深い内容となっております。

さらに、スポーツ（運動）による健康や医療への貢献は、特に我が国のような超高齢社会においては非常に重要な位置づけとなると考えられます。そこで、シンポジウムに「スポーツと健康、医療連携」を取り上げたいと思います。

ぜひ、自然豊かな栃木で開催される第42回日本臨床運動療法学会学術集会に、多くの皆様のご参加を賜りますようお願い申し上げます。

2023 Autumn Tochigi

2023年 10/14 土・15 日

“サルコペニア・フレイルと運動療法 予防から治療まで”

会場 獨協医科大学関湊記念ホール 他

会長 中島 敏明  
(獨協医科大学 医学部 特任教授)

副会長 豊田 茂  
(獨協医科大学 心臓・血管内科 / 循環器内科 主任教授)

## 演題募集

## 【募集期間】

2023年4月26日(水)  
～7月31日(月)

演題登録は、会員である必要はありません。皆様の演題応募、そして現地でのご発表をお待ちしております。



詳しくはWebをご覧ください

## Information①

## EIM Japan、第31回日本医学会総会博覧会に出展協力

日本臨床運動療法学会内EIM Japanは、2023年4月15日（土）～23日（日）、東京都丸の内エリアにて開催される第31回日本医学会総会博覧会のセルフケアスタジオにて、出展協力いたします。

博覧会は「みんなで健康、みんなの医療、みんなが長寿」をメインテーマとし、こどもから大人まで、学生から医療に関わる人たちまで、楽しく学べる展示会です。

丸ビル1階マルキューブでは、最先端の医療・技術の展示から次世代の病院・運動の体験まで、医学の近未来を俯瞰できる企画が実施されます。プログラム中、EIM Japan理事長 木村穰先生（関西医科大学 医学部 教授）が、4月19日（水）16:00～17:30に、「非接触のAI動作解析による脳・身体機能評価を体験しよう！」というタイトルでデモンストレーションを予定されています。医学会総会のテーマでもある「ビッグデータ」を効率よく分析・活用できるAI技術を用い、カメラの前で指示された動きをするだけで、脳・身体機能を自動評価する動作解析技術を体験できます。

4年に一度開催される医学会総会です。今後の医療の展望はどのようになるか、社会全体で知の共有を図るこの機会に、皆様ぜひお誘いあわせの上、足をお運びください。

HP：[第31回医学会総会博覧会](#)

**第31回** THE 31st GENERAL ASSEMBLY OF THE JAPAN MEDICAL CONGRESS  
**日本医学会総会**

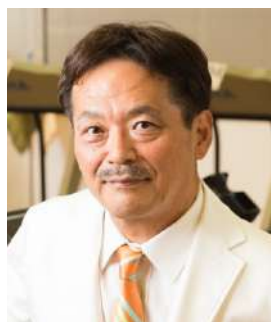
ビッグデータが拓く  
未来の医学と医療  
豊かな人生 100年時代を求めて

学術集会	2023年 4月21日(金)～23日(日)
学術展示	2023年 4月20日(木)～23日(日)
博覧会	2023年 4月15日(土)～23日(日)

会場 東京国際フォーラムおよび丸の内・有楽町エリア  
会頭 春日雅人 朝日生命成人病研究所長  
国立国際医療研究センター名誉理事長

主催機関 1.主催 日本医学会  
2.実行機関 第31回日本医学会総会  
3.主催機関 東京大学医学部、東京医科歯科大学医学部、慶応義塾大学医学部、東京医歯薬大学、慶応義塾大学医学部、京都大学医学部、福岡大学医学部、聖隷聖科大学、東京女子医科大学、東京中央大学、日本大学医学部、石井医科大学、独立行政機構研究センター、国立成育医療研究センター、東京府医師会  
4.後援(予定) 日本歯科医師会、日本産科婦人科医師会、日本小児科医師会、日本皮膚科医師会、日本泌尿器科医師会、日本眼科学会、日本耳鼻咽喉科医師会、日本放射線科医師会、日本救急科医師会、日本産科婦人科医師会、日本経産省、日本経済新聞社、東京新聞、共同通信社

事務局 〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学医学部附属病中央診療棟210F  
TEL 03-5800-6371 FAX 03-5800-6412 E-mail office@tokai.ac.jp



## EIM Japan 理事長

木村 穰

関西医科大学  
医学部 教授

2007年アメリカスポーツ医学会（ACSM）は、スポーツ・運動療法の医療システムへの統合を目指し、EIM（Exercise is Medicine; 運動はお薬です）を提唱しました。このスポーツ・運動療法普及プロジェクトには、世界40か国以上が参加しており、各国の実情に応じて政府機関と連携しながら活動しています。日本においては、2018年9月、日本臨床運動療法学会の下部組織として、

ACSM、関連省庁、運動療法関連学会および組織からご指導を賜りながら、Exercise Is Medicine (EIM) Japan が設立されました。

昨年の第41回日本臨床運動療法学会学術集会（大会長：佐藤真治先生 [帝京大学 医療技術学部 教授]）では、EIM Asiaを共同で開催し、日本がホスト国を務めました。EIM Asiaは、アジア地域のEIMナショナルセンターのメンバーが集まり、2年に一度開催される会議です。EIM Malaysia ManagerのDr. Ayman Nabel Al-Bedriからのメッセージを次頁に紹介します。世界中で蔓延する運動不足病の撲滅を目指し、グローバルに意見を交わすことは大変有意義であると考えています。

今後の日本において、科学的・実践的な運動療法、スポーツと医療・医学との連携推進のために、あたたかいご支援、ご協力のほど心よりお願い申し上げます。

## The Message

# Physical inactivity; the problem and the solution



**EIM Malaysia  
Manager**

**Ayman Nabel Al-  
Bedri**

In the current era, humankind seeks new technologies to ease daily work and to make faster development. For this particular reason, humans started to focus on those technologies to achieve goals and targets that used to take decades to be reached. However, as advanced technologies serve their main purpose the life of people becomes more challenging. With all those challenges in place, humans become more hard-working and less active, especially those spending office hours (up to 9 hours per day) doing desk jobs. With that, new diseases emerged and unfortunately unseen. Physical inactivity, which I also like to call the mother of all diseases, is a good example of those new health challenges we are facing in this rapid and fast-rhythm lifestyle. Physical inactivity has proven a modified risk factor for other chronic diseases including; cardiovascular disease, diabetes, obesity, bone and joint diseases, and also mental illness.

The Malaysia National Health and Morbidity Survey 2019 stated that 1 in 4 Malaysians aged 16 years and above are physically inactive. Therefore, it is not surprising that physical inactivity combined with inappropriate food choices, made Malaysia ranked first for nations with the highest obesity incidence in Asia. 1 in 2 Malaysians is overweight or obese, meaning that close to 50% of Malaysians are at risk of developing chronic diseases soon.

With all the facts given as an introduction, doctors need to develop and learn new sets of skills to be able to face those challenges. This is where the Exercise is Medicine® initiative can be the perfect tool to face Physical inactivity and all its consequences.

As doctors need to learn to prescribe medicine they need to learn to prescribe and exercise in an effective dose and form. That is when the doctors need to build a good network to dispense those exercise prescriptions effectively. An effective network is proven to be the perfect way to optimize the utilization and implementation of physical activity and exercise programs.

Both doctors and physical trainers must work together to raise awareness of the importance of the relationship between medical care and exercise. This can be achieved through many proven and evidence base activities for example but not limited to:

1. Promoting physical activity in schools, and starting exercise at a young age can be maintained as a good habit for the future. This can be done in many ways for example educating teachers, physical activity programs, and brochures.
2. Utilizing current existing community programs, approaching and developing an existing program can be much easier than creating a new one from scratch. Doctors and physical training must be aware of the local guidelines and programs and how to utilize them perfectly.
3. Be creative, and create your program and physical activity style, time and resources can be a challenge sometimes.
4. Involving other well-established bodies and organizations that share similar interests, can be a great way to start.
5. Do not be afraid to ask for help and fail, the key is to be consistent and hard working.

To sum up, what was written above, Physical inactivity is a new challenge faced by doctors and the new modern world. As technology evolves, doctors must find new ways to address new challenges. Networking is the key element for those doctors trying to find their way to their patients and the community. Our goals are to consistently identify, address, approach, train, and reassess the community needs and to help to find new ways to reduce the effect of Physical inactivity and its consequences.

## Information②

## JAETP Web CC (ケースカンファレンス)

初回登録はこちら



第4回、第5回は下記の通り開催されました。

参加は初回のみ右記Webから登録が必要です。参加費は無料です。学会員は、オンデマンド視聴も可能です。なお発表をご希望の方は事務局へご連絡ください。



第4回 2023年2月3日(金) 18:30～

演者 : 医療法人健伸会 かぎもとクリニック

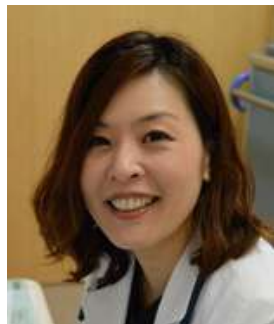
健康運動指導士・京都府糖尿病療養指導士 芝崎 美幸 先生

演題名 : 医療法人健伸会かぎもとクリニックの施設紹介と症例について

施設紹介 : 糖尿病・生活習慣病・動脈硬化の予防から治療までトータルにサポートできるよう、院長(糖尿病専門医)以下、糖尿病療養指導士の資格を持つ看護師、管理栄養士、健康運動指導士などが在籍。栄養指導室、メディカルフィットネス(運動療法指導室)など充実した施設を整備。

症例 : 93歳心臓ペースメーカー埋め込み多疾患罹患患者様について  
患者様が希望される「寄添う運動療法」について

施設HP : [医療法人健伸会 かぎもとクリニック](#)



第5回 2023年3月3日(金) 18:30～

演者 : 株式会社 岡山スポーツ会館

取締役 医師(糖尿病専門医) 江尻 純子 先生

演題名 : 血管合併症のある2型糖尿病患者における運動療法の実施報告

施設紹介 : 1972年創業の総合型フィットネスクラブ。直営4店舗(1店舗は子ども専用)。症例提示施設である榊原病院メディカルフィットネス(42条施設)より、運動メニュー作成と実施・施設管理を受託。

症例 : 【効果例】運動療法を実施している会員のうち、動脈硬化予防を目的とした教室(月3回実施)に参加した1例

【難治例】運動療法を継続しているが、体重・体脂肪率が改善したにも関わらずHbA1cが悪化した、インスリンを併用した肥満・糖尿病腎症合併症例

施設HP : [株式会社 岡山スポーツ会館](#)

連携施設HP : [心臓病センター榊原病院メディカルフィットネス](#)

## 次回案内

第6回 2023年4月7日(金) 18:30～

演者 : 社会医療法人高井会 高井病院 メディカルフィットネスSORA

健康運動指導士 畑 寿来 先生

理学療法士 中村 洋貴 先生

施設HP : [高井病院 メディカルフィットネスSORA](#)